

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

洞串 -どぐし-

Autumn 2014

Vol.7

特集

パネルディスプレイ
人形劇の笑いを通して考える



制作：FAO法人いいた人形劇センター TEL:050-3583-3594 FAX:050-3583-3594 E-mail:itida-puppet@mits.janitor.jp
Dogushi Vol.7 2014年10月発行 発行：人形劇のまち飯田運営協議会

掲示板 いいた人形劇センター
からのお知らせ

人形劇ワークショップ 「人魚姫」 応援スタッフ 大募集!!

来年3月上旬「人魚姫」の初演に向け、参加者による人形制作や舞台稽古が進む人形劇ワークショップですが、舞台の大道具や小道具、人形や役者の衣装などに必要の制作物がまだまだ山のようにあります。

そこで、作業のお手伝いをして下さる応援スタッフを大募集します。「工作、手芸、裁縫などが得意!」「絵を描くのが好き!」「公演の運営をやってみたい!」「なんか面白そう!」と思った方、ぜひ一緒に飯田発の人形劇を作りましょう。ご連絡お待ちしております。

- 問合せ:いいた人形劇センター
- TEL:050-3583-3594

Dogushi



View of IIDA

気持ちの良い秋晴れの下、フランスの伝統人形芝居「ポリジネル」フィリップ・サーモントの屋外公演が行われました。アコーディオンの音色とともに繰り広げられるコミカルな動きの舞台に、観客からは惜しみない拍手がおくられました。

わかる!! 人形劇用語

「差金」(さしがね)

「さては奴の差金だな」は、テレビなどで聞いたことのあるセリフです。この場合、陰で誰かがそれを仕組んだ、操っているという意味ですね。

人形劇では、人形の腕などを操作するために、手の甲などから出ている細いビ

アノ線などをさします。このコラムに最初に書いた「胴串」は、人形の頭や胴体などを操作する太目の、いわばメインの人形操作棒ですが、対して差金は部分を操作するサブ操作棒という感じででしょうか。ただし、蝶などの小動物の人形に関しては、メインの操作棒であつても差金とよばれます。

三人遣いの人形では、人形の左手に用いられ竹製で腕の中を通りひじに抜け

ています。また、衣装などにうまく隠してつけるなど、観客からは見えないように工夫してつけられている場合もあります。
(人形芝居燕屋くすのき燕)



並木 さんぽ

飯田下伊那に住む高校生・社会人11人が集まり、ふるさと飯田のCMを“こま撮りアニメーション”でつくるワークショップがスタートしました。リンゴ、獅子舞、花火、人形劇、水引、桜…。思い描く「ふるさと飯田」は人それぞれ。皆で意見を交わし、ストーリーが完成しましたが、これからが本番。撮影に必要な美術制作と、1コマ1コマの地道な撮影作業が待っています。どのように仕上がるか、来年3月の完成が待ち遠しいです。

次号は2015年1月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



大野 正雄
演出家・人形劇俳優。人形劇団むすび座所属。演出を手掛けた『ピノキオ』が、平成26年度「児童福祉文化賞(厚生労働大臣賞)」を受賞。



コーディネーター
高松 和子
いいだ人形劇センター
理事長

大野 人間と人形がやる芝居の違いかな。演出効果もありますが人形劇は見る側の想像力が必要です。人間がやる芝居を見て笑う、ということに比較的抵抗があるような気がします。人形がやっているから、気兼ねなく笑えるということもあるのではないのでしょうか。

沢 チェコには「操作される民衆」という社会的思想があります。日常苦しい時には笑うしかない、ひどい状況ほど笑える。これを演劇で行うと役者の背景が見えてしましますが、人形では見えない。だから感情移入しやすい。さらに、ここにはサイズも関係して、等身大より小さい方が感情移入しやすいとも言われています。

特集 パネルディスカッション 人形劇の笑いを通して考える

いいだ人形劇フェスタ2014の期間で開催されたパネルディスカッション「人形劇の笑いを通して考える」(いいだ人形劇センター主催)。人形劇俳優、演出家、パフォーマーとして国内外で活躍するパネリスト4名からさまざまな意見が出され、会場に集まった市民や大学生、人形劇人、研究者ら50人も巻き込み、充実したやりとりがされました。



人形劇における笑いの存在

高松 「飯田女子短期大学の学生が介護施設へ行き、これから自身の周りで起こるであろう認知症のことや老人介護について解説する際、手段として人形劇を取り入れた。すると深刻な内容の話であるにも関わらず会場からは笑いが起こった。」これは一例ですが、なぜ人形劇でこまごまの笑いが起こったのかを検証したいと思い、今回のテーマとしました。

地域で笑いは異なるか

高松 世界、日本の東西で笑いのポイントとは異なるのでしょうか。

沢 海外ではだいたい同じところで笑いが起きます。セリフの有無にかかわらず。間合いかな。

大野 関西に住む者として、関西はボケとツッコミははっきりしています。が、お客さんの表現方法の違いであって、顔には出さず内心は大爆笑という人もいますし。

来住野 地域での違いではないけれど、小学校へ上演に行くとき、笑いで子どもたちがざわざわすると「静かにしろ」と怒る先生がいる。これには弱ります。

Kei 道化にとつて笑いはとても難しい。どうやったら観客が笑ってくれるかを日夜考えるも玉碎。日常こそが喜劇。でもなぜこれをステージで出せないかなあ。

高松 この時間だけで結論を出すことは難しいですが、皆さんからいろいろな意見を伺うことができました。ありがとうございました。

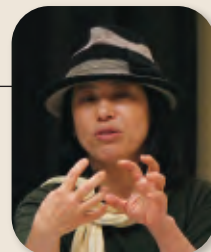
※今回掲載したパネルディスカッション「笑いを通して考える」の全内容を多くの方にご覧いただけるよう、いいだ人形劇センターのウェブサイトに「アーカイブ」にて発信予定。現在、制作をすすめています。



沢 則行
人形劇師。チェコを拠点に世界で活躍。現在、いいだ人形劇センター主催「フィギュアシアター・デザインコース」の講師を務める。



来住野 正雄
人形劇俳優・演出家。人形劇団ひとみ座所属。幼児から大人向けまで幅広い作品の演出を手掛けるほか、自身も人形劇俳優として舞台に立つ。



Kei
道化師「ましゅ&Kei」。10年前に活動の拠点を東京から飯田へ移し、国内のみならずフランス、台湾、韓国など海外公演も精力的に行う。

と自分自身に置き換えてしまいつらいことにはしか見えてこなかったはず。それが人形劇だとダイレクトに伝わってこない。人形は一つのフィルター、一つのクッションの役割を果たしたのでは。

来住野 震災支援で東北へ人形劇公演に行った時のこと。見に来てくれた人たちから、芝居ではなく人形劇が見たかったとの感想をもらいました。悲惨な現実を目の当たりにした後、人が求めたものはフィルターを通して客観的に見られる人形劇だった。人と人との間にモノが介在しているからこそ、みんな素直に笑えたのだと思います。

わくわく イベントスケジュール

11 NOV 人形劇公演 in 第8回飯田丘のまちフェスティバル
11月3日(祝) 13:00-15:00
会場/川本喜八郎人形美術館 料金/無料
出演/田辺「普通の生活」

12 DEC 森のぼかぼかクリスマス
12月7日(日) 会場/かざこし子どもの森公園
出演/人形劇団むすび座
人形劇公演のほか、クリスマスリースやピザを作る体験を組み合わせたスペシャル企画 ※有料

ましゅ&Keiのクリスマス会
12月23日(祝) 会場/川本喜八郎人形美術館
ましゅ&Keiがゲストとともに繰り広げる愉快なステージ。
昼はファミリー向け、夜は大人向けの2公演 ※有料

1 JAN 沢 則行フィギュアシアター・デザインコース
1月4日(日)~11日(日) 会場/川本喜八郎人形美術館
チェコを拠点に活躍する人形劇師・沢則行を講師に、人形美術・舞台美術におけるデザインの考え方を学び実践する講座。1月10日・11日はこれまでの成果を展示・プレゼンします

初春を寿ぐ竹田人形館
1月4日(日) 会場/竹田糸操人形館
出演/ひとみ座乙女文楽、竹田人形座竹の子会 ※有料

- 人形劇ワークショップ「人魚姫」
2015年3月上旬の初演を目指して人形劇を制作中
- こま撮りアニメーション・パーフェクトコース
ふるさと飯田をPRするCM映像を制作中

朧 人形たちのカーニバル

宇野小四郎「人形劇研究者」

「題名で迷惑かけて済みません」

馬鹿馬鹿しい話が転がっています。それは私が前号に書いた「あわてる乞食はもらいが少ない」という題名です。しかし前号の内容を読み返してもこの題名と重なる所はほとんどありません。否、書いた本人がそう言っているのですから、そう思ってください。これはこの文章の頭の辺を書いていてそのまますつぽ抜かししていたら、早く仕上げてくださいと、まわりからせきたてられたのに対応したものです。それを周りでけしかけた人が、僕の言った言葉をその儘書き留めたので、こういうことになってしまった。勿論、僕自身、校正をしているのだから文句の付けようもない。飯田の皆さん、宇野小四郎とはこういう男です。平に御寛容ください。

物事を正確に他人に伝えるという事は、僕



宇野小四郎
人形劇団ひとみ座創立メンバーで、(公財)現代人形劇センター元理事長。現在、銀の鈴舎主宰。人形劇の上演・演出・出版事業等、多岐にわたり活躍している。

にとつては難事である。狂言の言葉は美しい日本語だと思いが、キヤーキヤーキヤーと言えど何の鳴き声かという猿である。これは分かり易いや。ではビョービョービョーと言えど、何の鳴き声かと言いつと、これは何と、犬である！何とと、力むほどの事でもないか。生垣をこわすのはメリ、メリメリメリメリ。壺の口を開くのはムリ、ムリムリムリムリとなる。これが紙なのか、それとも植物のような物なのかよく分からなくなるが、観客の人々の関心を引き付ける要素になっている。

ここで僕は新たに思いついた。僕はいい気になつて人形劇人的ダジャレを飯田にふりまこうとしていた。僕はこれから飯田語を勉強してみたいと思う。「そんな努力はせんでええわ」と言われそうである。

(つづく)

Library Cafe

飯田とつながる
世界の人形劇図書資料から①

『子どもの文化』2012年7+8月号「特集 人形劇全科—人形劇のひろがり願って」

月刊誌の全200頁の人形劇まるまる特集号。さまざまな視点から執筆者とテーマをひろく選んで、「いいだ人形劇フェスタ—市民がつくる人形劇の祭り」「人形とこども」「日本の人形劇は今」「世界の人形劇」「人形劇の楽しさ」「仲よし」「人形劇を学ぶための基礎文献50+1」「現代人形劇人30+1」など内容豊富。とくに人形劇21世紀会議講演録から片岡輝「人形劇の可能性を考える七つのアプローチ」は人形劇に重い一石を投じている。

雑誌としては異例ともいえる訂正、追加も盛込まれた増刷も出た。児童文化評論の上笠一郎氏が「人形劇として画期的内容の出版だ」と評している。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



子どもの文化研究所 発行
2012年

突撃!!

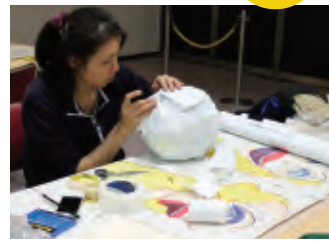
人形劇のゲンバ

Part7



一人ひとりに向き合い、課題を出し、表現方法を一緒に考え、実技指導もして、と一日フル回転の沢則行さん。参加者は一言一句聞き逃さないよう、さらに自分の考えを伝えようと必死です

誰かがどこかでやったものでなく
自分だけの伝え方を考える



絵を描き、図面を引いてから人形や舞台模型制作に取り掛かります

人形や舞台美術におけるデザインを考え方を学ぶ「フィギュアシアター・デザインコース」が開催されているとの情報をキャッチ。さっそく「ゲンバ」をおさえるべく、会場へ直行！講師を務めるチエコ在住の人形劇師沢則行さんにお話しを伺いました。

「フィギュアシアター」とは、人間・人形モノ・仮面も出る、どんなジャンルともクロスオーバーできる形あるものの舞台のこと。ヨーロッパでは50年以上前から行われている。日本ではまだ新しいとされているけれど、



ど、自分が世界で経験して得たフィギュアシアターのやり方を伝えていきます。

参加者に話したのは「よく考えること。ヨーロッパではなぜその作品をやるのかを突き詰めて考える。どこが好きで、どこにひかれたのか、作品の中にいつて研究する作業をすることで、何を表現したいか、いつながってくる。例えば人形と一緒に舞台上に立っている自分は何なのか、とかね。誰かがどこかでやったものの繰り返しではなく、その人にしかできないものを考えてほしい。」

参加者の作品を見るとそれぞれバラエティに富んだ内容になっていて、よく考えたなと思う。今回は上演を前提に制作はしていないが、みんな上演するつもりで真剣につくっている。

来年一月には成果を展示して発表する場を設けるので、多くの人に見てもらいたい。



9月の講座では経過状況のプレゼンを実施。参加者は登場人物をなぜ人形が演じるか、なぜ絵で表現するかなど、絵コンテとともに制作中の人形や面、舞台模型などを用意して臨みました



結成から18年連続で人形劇カーニバル飯田・いいだ人形劇フェスタに参加。今年は「三匹のこぶた」を上演しました

人形劇サークル 赤かぶ

18年前、飯田文化会館が主催した人形劇の研修会がきっかけとなり、飯田市内の保育士さんたちによって結成された「人形劇サークル赤かぶ」。当時の研修会で講師として指導にあたったのが人形劇団むすび座創立者の一人、丹下進さんでした。「その動きでは観ている子どもたちが飽きちゃうよ。子どもの気持ち



になって、目線も合せてね」と、時に厳しく時にやさしく、いろいろなことを教えてくださいました」と代表の川尻美千子さんは話します。
今年8月のいいだ人形劇フェスタは伊賀良公民館で上演し、400人を超える観客が大集合。熱気を帯びた会場にメンバーが登場して手遊びが始まると、それまでそわそわしていた子どもたちが一気に集中するのがわかります。そして公演が終了すると待ち構えていたように「先生！楽しかったよ!!」と大勢が舞台へ詰めかける姿も。「こうして教える子に会えることで子どもたちの成長を感じつつ、次に上演する活力をもらっています」。皆さん充実した表情を浮かべていました。



公演終了後、舞台上に詰めかける子どもたち。代表の川尻美千子さんは「楽しみに待っていてくれるファンがいてくれるから18年間も続けられている。ありがたいことです」



いいだ再発見

「文楽人形をつくる」の巻

美しい女が一瞬にして鬼にかわる「ガブ」の首。口が裂け、目をむき、角が出る巧みなからくりが仕込まれています



が震えた」。さらなる技術の習得を目指し、文楽人形の基本を学ぶため大阪へ通うこと2年。「目線の角度、人形の中心の取り方、首と胴串とのバランスなど人形づくりにはいくつものセオリーがある。夢中になりました」。評判を聞きつけ、地芝居を継承する各地の団体や文楽協会に所属するプロからの注文も。「大変に光栄です。これも家内が協力してくれるからこそ」と一緒に作業をする啓子さんを労い、年内に納める人形の制作が続きます。

伝統人形浄瑠璃「今田人形」が継承される飯田市龍江に住む牧本寿亮さん(82)。20年ほど前に体調を崩したことがきっかけで仏像を彫るようになり、その見事な仕上がりに今田人形座から人形の首(かしら)を作ってもらい、その依頼を手掛けて以来、人形づくりは牧本さんの生きがいになりました。

「体調の回復を願いながらする思いで仏像を彫っていた。出来上がった人形や首は自分の手をはなれるが、その後は人の手によって動き、命が吹き込まれる。この様子を見た時に仏像を彫っていた時とは違う喜びと感動に心

「正面から見るだけでなく、後ろから見ても首と胴串の位置が整っていることが大事」と牧本寿亮さん

目が動くからくりを仕込んだ首。からくりを滑らかに動かすのに必要なバネはクジラのヒゲを使います



日本ウニマ通信 世界みて ある記 ③

プロヴディフ(ブルガリア)

日本ウニマ事務局 ● 松澤文字

プロヴディフはブルガリア第2の都市で、首都ソフィアから車で2時間ほどに位置しています。古代の歴史に彩られた街で、町の中心地にぽっかり穴があき、下を覗くと円形競技場の遺跡の一部を見ることが出来ます。郊外にはローマ劇場が残されていて、自由に入って石の座席に座ってみることもでき



ブルガリア第2の都市「プロヴディフ」の街並み

ます。町は新市街と、丘に沿った石畳の道を持つ美しい旧市街に分かれています。旧市街の中には木組みの美しい伝統的な建物があり、それがゲストハウスとして使われて、重厚な造りの中に木の暖かさを感じるおしゃれな建物です。

円形競技場のすぐそばに「プロヴディフ人形劇場」があります。客席136席の人形劇場。アトリエ、劇団員のたまり場などを備えた、ステキな劇場です。劇団員は約30人、内人形遣いは12人、照明・音響スタッフが11人。2年に一度「3人では多すぎる2人では足りない」(Three are Too Much, Two-not Enough)人形劇フェスティバルを開催し、国内外からまさに2〜3人の出演者の作品が集まる、質の高いフェスティバルです。日本公演も数回あります。1997年には大人を対象とした作品「ドン・キホーテ」を公演し、個人的には大変印象深い作品でした。

1997年の人形劇カーニバル飯田で上演された「ドン・キホーテ」

